

梁川小学校

児童数 45人
所在地 江刺梁川字日ノ神112番地 ☎2220



梁川小学校の学区は、江刺の北部に位置し、北部および東部は花巻市東和町、西部は北上市口内町および江刺広瀬、南部は江刺玉里に接しています。平成24年には、釜石自動車道が開通し、学区には江刺田瀬インターチェンジができました。空港、新幹線駅、高速自動車道にも近く、交通の要衝となっています。

学校は、日ノ神地区の小高い丘の上、金性寺の向かいにあり、梁川地区センターや梁川保育所にも近いので、保護者以外にも地域の皆さんが何かと足を運んでくださいます。四季折々の美しい風景や住民の優しさに包まれながら、全校児童45人は、すくすくと素直に育っています。

あの人も…

梁川小は、大滝詠一さんの母校です。昭和30年4月に入学しました。今も校庭にある、二宮金次郎の像とともに笑顔で写っている写真が残されています。大滝さんのお母さんも昭和25年から34年まで養護教諭として勤務しました。



地域の皆さんとの触れ合いを大切に

梁川小は、児童と高齢者との交流が盛んです。毎年7月には、老人クラブとの交流会があります。学校周辺の草刈りなど、環境整備をしてくださるお礼に、歌を歌ったり、肩をもちたりして交流します。9月には祖父母を招待し、体育館でミニコンサートを開きます。児童の歌や合奏を楽しんでいた後に、一緒に給食をいただきます。このような世代間交流の機会は、高齢者にとっても喜びであり、児童の自己肯定感を育むきっかけにもなっています。



復興支援道路「梁川トンネル」まもなく開通！！



平成31年3月に、江刺梁川と北上市口内町にかかる国道107号梁川トンネル(仮称)が開通する予定となっています。梁川小児童は、昨年7月19日に現場見学会、今年5月29日に貫通式へと招かれました。今後、トンネルの正式名称が決まったら、トンネル銘板の揮毫を児童が書くことになっています。3月の開通式が楽しみです。

学校通信

冬の親子運動会

オリジナルPTA行事として、1月末の土曜日には「PTA冬の親子運動会」が行われます。雪が積もった校庭にまいたミカンを拾う宝探しの他、そりりレー、チューブ投げ、雪上サッカー、雪上フラッグスなど、保護者も教職員も、児童と一緒に楽しく体を動かします。昼食にはお母さんたち手作りの豚汁をおいしくいただきます。



伝統を引き継ぐことは、個を成長させること

平成元年に始まった金津流梁小獅子舞は、今年で30年目を迎えました。梁川に伝わる金津流野崎獅子舞の皆さんが、指導してくださっています。1～3年生は大きな声で口唱をします。4年生は足を上げて元気に躍ること、5・6年生は歴史や伝統を感じながら躍ることが目標です。例年、運動会や松尾神社例大祭などで公演を行っています。装束の着付けや太鼓のたたき方、構えや足の運びなど覚えることは多いのですが、卒業間近になると自信に満ちた動きで観客を魅了するようになります。3月、6年生は下級生へ躍りを引き継ぎ、学校を巣立っていきます。6年間の成長は、この活動からも実感することができます。



いいところ、知っとこ、おうしゅう

地区センター単位で各地区を紹介します



衣川地区

拠点 衣川地区センター
(衣川古戸15番地10 ☎3426)



磐神社



衣川ふるさと自然塾(旧大森分校)

衣川地区は、衣川の中央部に位置し、自然が豊かで、多くの史跡が点在しています。安倍氏の拠点だった安倍館跡や安倍氏の守護神「磐神社」。新渡戸稲造が著書「武士道」で、安倍貞任と八幡太郎義家が前九年合戦で交わした和歌問答を紹介した一首坂はその代表的なものです。今は亡き三好京三先生が、衣川小学校大森分校で教鞭を執っていた頃の出来事を書いた「子育てごっこ」は直木賞に輝きました。衣川ふるさと自然塾地内に現存する旧大森分校その足跡をしのぶことができます。そして、三好先

生が当事の小坂盛雄教育長の指導のもと始めた「大森子ども神楽」は、分校の廃校とともに衣川小学校の活動として今に引き継がれています。「感動できる、感動を与える仕事をしろ」は、地区振興会発足から10年間会長を務める佐藤利男会長の口癖。そんな会長の強いリーダーシップのもと、これまでさまざまな事業を展開してきました。奥羽山脈、須川岳と、素晴らしい山々を眺望できる喜びを感じながら、「感動できる地域」を念頭に、地域一体となった取り組みが次代に引き継がれていきます。

「地区振興会まつり」は、敬老会と共に振興会の大きなイベントの一つ。毎年10月中旬に開催し、「縄ない」「かぼちゃ運び」「リンゴの皮むき」などの行政区対抗競技のほか、衣川中学校吹奏楽部の演奏、プロによる民謡・演歌・三味線演奏などで会場は盛り上がります。また、ホタテ焼き、サンマのすり身汁などの振る舞いや、競技賞品に気仙沼の海産物を使うなど、東日本大震災の復興支援を兼ねたイベントでもあります。



地区センターは、元々農業関係の研究施設だったことから、中に入りづらいところがあり、それを打破しようと2人の活動員が企画した「ミニ展示会」。2年目となる本年度は、「切り絵」「トールペイント」「江戸木目込人形」「簾細工」を開催しました。今後もさまざまな分野での達人を紹介していきます。

「明るく・心豊かな地域を」と、古戸農地・水環境保全組合との共催でおとしから地区センター近くの交差点で輝くイルミネーション。樹高15mのドイツトウヒとその周辺に、本年度も12月中旬から1月20日まで8,000個のLED電球が衣川の夜を美しく照らします。



☆輝く人☆



振興会評議員
日本防災士機構認証・防災士
菅原 敏治 さん
(衣川女石)

振興会役員、民生委員、地域自主防災会会長、そして、この7月に新たに発足した奥州市防災士会「絆」の監事。まさに地域の安心安全を守るために生まれてきたような人です。岩手宮城内陸地震、東日本大震災、そして7月の西日本豪雨と、次々と発生する災害。今後想定されるさまざまな災害にどう対応すべきか。菅原さんに期待するところ大です。地区振興会主催の防災訓練での指導はもちろん、新規事業で始めた「健康づくり・スポーツ吹矢」でもリーダーとして組織作りを画策中。愛称「とすんつあん」は今日も忙しく地域内を駆け回ります。